

2022年度 業務実績及び第1期中期目標期間見込実績 自己評価の概要

自己評価の考え方

■適切な自己評価を行うため、客観的な評価を定めた自己評価基準を設けており、2022年度 業務実績及び中期目標期間見込実績については、2021年度第2回経営審議会において報告した以下の基準に基づき、自己評価を実施した。

<自己評価基準>

①各計画の達成水準1つずつについて、以下の基準に基づき評価を行う。

- 「5」：達成度が**120%以上**で、顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
「4」：達成度が**105%以上**と認められるもの
「3」：達成度が**90%以上**、**105%未満**と認められるもの
「2」：達成度が**60%以上**、**90%未満**と認められるもの
「1」：達成度が**60%未満**と認められるもの

<参考>2020年度評価基準

- 「5」：達成度が**110%以上**で～
「4」：達成度が**110%以上**と～
「3」：～**90%以上**、**110%未満**と～
「2」「1」は変更なし

②①の達成水準の各事項の評価から計画全体での平均値を算出し、以下の基準を目安として

各計画の総合評価を行う。

- 「V」：**3.6以上**であって、顕著な実績又は特に優れた成果が認められるもの
「IV」：**3.15以上**
「III」：**2.7以上**、**3.15未満**
「II」：**1.8以上**、**2.7未満**
「I」：**1.8未満**

<参考>2020年度評価基準

- 「V」：**3.3以上**であって～
「IV」：**3.3以上**
「III」：～**2.7以上**、**3.3未満**
「II」「I」は変更なし

自己評価の概要

<2022年度業務実績>

	V	IV	III	II	I	項目数	対象となる 年度計画No
① 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学)	0	8	18	0	0	26	No.1～No.26
② 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学工業高等専門学校)	0	0	6	1	0	7	No.27～No.33
③ 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪府立大学及び大阪市立大学)	0	2	8	0	0	10	No.34～No.43
④ 業務運営の改善及び効率化に関する措置	0	0	6	1	0	7	No.44～No.50
⑤ 財務内容の改善に関する措置	0	0	2	0	0	2	No.51～No.52
⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する措置	0	1	2	0	0	3	No.53～No.55
⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	0	0	9	1	0	10	No.56～No.65
合 計	0	11	51	3	0	65	
	0%	17%	78%	5%	0%		

<参考> 2021年度業務実績 自己評価

0	18	118	6	0	146
0%	12%	81%	4%	0%	

<第1期中期目標期間見込実績>

	V	IV	III	II	I	項目数	対象となる 年度計画No
① 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学)	0	5	21	0	0	26	No.1～No.26
② 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪公立大学工業高等専門学校)	0	0	7	0	0	7	No.27～No.33
③ 教育研究等の質の向上に関する措置 (大阪府立大学及び大阪市立大学)	0	2	8	0	0	10	No.34～No.43
④ 業務運営の改善及び効率化に関する措置	0	0	7	0	0	7	No.44～No.50
⑤ 財務内容の改善に関する措置	0	0	2	0	0	2	No.51～No.52
⑥ 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する措置	0	1	2	0	0	3	No.53～No.55
⑦ その他業務運営に関する重要目標を達成するための措置	0	0	9	1	0	10	No.56～No.65
合 計	0	8	56	1	0	65	
	0%	12%	86%	2%	0%		

【自己評価】

法人は、年度計画の小項目ごとに、計画及び取組実績に基づき、次に掲げる記入要領により業務実績報告書に自己評価を記載する。（公立大学法人大阪 各年度終了時における業務実績評価実施要領）

- 「Ⅴ」 年度計画を大幅に上回って進捗している
 - ・顕著な実績又は特に優れた成果が認められる場合
- 「Ⅳ」 年度計画を上回って実施している。
 - ・達成度が計画を上回る取組、実績又は成果を挙げた場合
- 「Ⅲ」 年度計画を順調に実施している。
 - ・達成度が計画どおりと認められる場合
- 「Ⅱ」 年度計画を十分に実施できていない。
 - ・達成度がやや下回るもののおおむね計画どおりと認められる場合
- 「Ⅰ」 年度計画を大幅に下回っている。
 - ・達成度が計画より大幅に下回る場合

IV評価と判断した理由等

<2022年度業務実績>

■IV評価の項目（11項目）

計画No.	事項	判断理由
2	大学院課程教育の充実	履修証明プログラムの本格的運用について、受講者確定から修了認定・履修証明書発行までの運営体系を整備し、「産学連携教育イノベーター育成プログラム（アントレプレナーシップ教育力育成コース）」を本学の履修証明プログラムとして開講した。また、ビジネスアイデア創造ワークショップなどの社会問題解決型PBLの実施件数、リーディング生以外のリーディング大学院科目受講者数、「国際活動とキャリア」の開講回数がそれぞれ、目標件数を上回ったため、IV評価とした。 ■社会問題解決型PBL実施件数：5件/目標1件 ■学士、博士前期課程へのキャリアパス科目充実のため、「国際活動とキャリア」を開講：4回/目標2回 ■幅広い研究科・専攻からのリーディング大学院科目受講（リーディング生以外の受講者数）：35.7%/目標10%
7	課外活動支援	専任のボランティアコーディネーターを配置し、春と秋にボランティア説明会を実施した結果、ボランティアセンター新規登録学生数が目標を上回ったため、IV評価とした。 ■ボランティアセンター新規登録学生数：140名/目標120名
8	キャリア支援	杉本、中百舌鳥キャンパスにて、対面およびオンラインでの「個別キャリア相談」を実施したことにより、学生はキャンパスを跨って個別相談を利用できるようになった。多様なタイプの相談員利用、相談予約空枠の相互利用により、目標件数を上回る「個別キャリア相談」を実施することができた。また、府大、市大の学生特性に沿ったイベントを継承開催しつつ、対面開催とオンライン開催を組み合わせ、杉本、中百舌鳥キャンパスで企業セミナーや就職ガイダンスなど、目標を大幅に上回る就職支援イベントを実施したため、IV評価とした。 ■個別キャリア相談件数：5,207件 / 目標4,000件 ■就職支援イベント回数：300回 / 目標100回
11	入学者選抜	入試制度や問題作成の参考資料として、志願動向分析に加え、個別学力検査の各試験問題の大問別の得点分析を学部・学域別に行うなど、年度計画を超える取組み実施したため、IV評価とした。 ■志願者倍率(学部・学域一般) 2023年度入試：5.8倍（前期3.2倍、中期13.1倍、後期10.6倍） 2022年度入試：5.4倍（前期2.7倍、中期14.0倍、後期8.4倍）
12	研究力の強化	女性研究者に対するスキルアップセミナーの実施回数や連携型共同研究助成事業の採択件数、若手研究者等の研究力向上のためのURAによる科研費申請支援件数や博士後期課程学生へのメンター面談実施回数、外国語論文校閲・翻訳費助成件数がいずれも、目標を上回ったため、IV評価とした。 ■スキルアップセミナー実施回数：4回/目標2回 ■連携型共同研究助成事業の実施：9件/目標3件 ■URAによる若手研究者等への科研費申請支援件数：39件/目標20件 ■URAによる博士後期課程学生へのメンター面談回数：361回/目標100回 ■外国語論文校閲・翻訳費助成の実施：4件/目標3件

計画 No.	事項	判断理由
15	諸機関との連携強化	<p>コミュニティ防災フォーラムやサイエンスカフェなど、地域防災の担い手に向けた人材育成教育を計画通り実施し、目標を上回る参加者数となった。また地域連携センターには123件もの相談が寄せられ、うち104件については連携先とのマッチングを成立させた。さらに、本学の設置団体である大阪府・大阪市との更なる連携の推進をめざし、各部局から挙げられた行政ニーズと学内の教育・研究シーズとのマッチングに向けたコーディネートを行うスタートアップ支援事業を6件実施し、目標を大きく上回ったため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■地域コミュニティ防災人材育成事業参加者数：334名/目標300名 ■地域連携センターへの相談件数：123件/目標80件 ■スタートアップ支援事業の実施件数：6件/目標4件
17	生涯学習への貢献	<p>都心部にある利便性を活かし、目標を上回る件数の公開講座をI-siteなんばおよび文化交流センターで開催した。また、社会人の学びやすさを意識し、土日・平日夜間又はオンラインにより、目標を上回る件数の公開講座を開催したため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■I-siteなんば及び文化交流センターを利用した公開講座の開催件数：61件/目標40件 ■土日・平日夜間又はオンラインでの公開講座の開催件数：97件/目標35件
24	高度専門医療人の育成	<p>CSTでの外傷外科研修開催回数や、気道管理、呼吸管理、循環管理講習会の実施回数、災害対応セミナーの開催回数、特定行為研修修了者数が目標を上回ったため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■CSTでの外傷外科研修開催回数：2回/目標1回 ■気道管理、呼吸管理、循環管理講習会の実施回数：4回/目標3回 ■災害対応セミナーの開催回数：3回/目標1回 ■特定行為研修の修了者数：11名/目標6名
41	(府大) キャリア支援	<p>就職支援イベントの開催実績、キャリア相談件数、少人数インタラクティブセミナー参加者数及び就職率について、すべて目標を上回ったため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就職支援イベントの開催実績：215回/目標90回 ■キャリア相談件数：2,361件/目標2,020件 ■少人数インタラクティブセミナー参加者数：848名/目標200名
43	(市大) キャリア支援	<p>就職ガイダンス、企業セミナーの延べ参加者数、留学生向け就職ガイダンスの実施回数、低学年次も対象に含んだ「キャリア支援ガイダンス」の実施回数、就職率が目標を上回ったため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■就職ガイダンス、企業セミナーの参加者数：7,020名/目標5,000名 ■留学生向け就職ガイダンス実施回数：5回/目標2回 ■キャリア支援ガイダンスの実施回数：4回/目標3回
55	戦略的広報	<p>メディア懇談会を目標を上回る回数実施した。また、医、工、理をはじめ、リハ、看護、生科、現シスなどからの様々な研究成果に基づくプレスリリースを行い、目標件数を上回った。さらに、広報課内に「国際広報室」を設置し、2名のネイティブスタッフを中心に日本語研究リリースの英語化及びその発信を進め、目標件数を上回ったため、IV評価とした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■メディア懇談会実施回数：5回/目標4回 ■研究プレスリリース発信件数(日本語)：119件/目標90件 ■研究プレスリリース発信件数(英語)：79件/目標40件

<2023、2024年度事業実施見込>

■IV評価の項目（8項目）

計画No.	事項	判断理由
7	課外活動支援	大阪公立大学ボランティア・市民活動センターにおいて、新入生および在校生を対象にボランティア説明会を実施し、 2023年度、2024年度 を通じてボランティアセンターの新規登録学生数： 130 人、杉本キャンパスの新規学生スタッフ： 2 名という見込みであり、また、杉本キャンパスでの学生スタッフの育成にも注力する予定である。 2022年度 のボランティアセンターの活動実績を踏まえれば、達成水準「大阪公立大学ボランティア・市民活動センターの設置、運営」について、当初計画を上回る事業実施を見込めることから、IV評価としている。
8	キャリア支援	2023年度、2024年度 ともに、就職活動期の学生向け就職ガイダンス、学生の職業理解及びインターンシップ先情報提供を目的とした企業職業理解セミナーを開催するとともに、個別学生相談及び就職活動スキル養成の行事を通年実施し、また多様な学生向けキャリア形成行事として低学年向け及び留学生向け行事を開催する予定である。 2022年度 の相談数やイベント開催実績を踏まえると、当初計画を上回る事業実施を見込めることから、IV評価としている。
12	研究力の強化	女性研究者支援室にて、専任教員における女性に籍比率および、教授等の上位職における女性比率アップのため、女性研究者が研究業績を上げられるよう、スキルアップセミナーや共同研究助成等の研究支援に引き続き注力し、 2022年度 と同様に、当初計画を上回る事業実施を見込めることから、IV評価としている。
15	諸機関との連携強化	コミュニティ防災フォーラムやサイエンスカフェなどを実施し、防災・減災に関する情報を広く共有することで、地域防災の担い手に向けた人材育成教育を行う見込みとなっている。また、教育・研究と並び大学としての重要な使命である社会貢献活動を担うため、地域から寄せられる様々な課題解決や人材育成支援などに向け、自治体・地域等からの受託事業をはじめ、協定による連携事業、地域連携活動に伴う講座並びに小中高連携事業などを実施する見込みとなっており、地域の課題解決や発展に向けた諸機関との連携が 2022年度 と同様に、当初計画を上回る事業実施を見込めることから、IV評価としている。
17	生涯学習への貢献	2023年度 は、多様で質の高い講座を開講するため、 2022年度 及び 2023年度 に実施した公開講座のアンケートについて生涯学習センターで検証し、 2024年度 に向けて、検証結果を反映した新規講座を企画する見込みとなっている。また、 2024年度 は、アンケート等に基づく新規講座の企画に加え、 2025年度 に向けて、森之宮キャンパス開校を記念した講座や森之宮キャンパスでの授業公開講座の実施について検討する見込みである。さらに 2024年度 は、公開講座の見直しを随時行いながら、 2023年度 並みの件数となるよう公開講座を継続的に実施するとともに、 Web サイトの公開講座ページに動画閲覧サイトの開設を検討する見込みとなっており、当初計画を上回る事業実施を見込めることから、IV評価としている。

計画 No.	事項	判断理由
41	(府大) キャリア支援	学生の就活情報の需要提供を大学内で常設的に提供できる個別学生相談、就活スキルトレーニング、職業理解セミナーを開催しつつ、例年の社会的就職活動スケジュールに対応した就職支援イベントを学生の所属キャンパスの特性や養成スキルに応じて企画・実施する見込みとなっており、 2022 年度に引き続き、高い水準を維持し、当初計画を上回る実施見込みとなっている。これらの事業実施見込みを踏まえ、IV評価としている。
43	(市大) キャリア支援	時流に沿った情報を盛り込んだ労働法制セミナー、就職ガイダンス、企業セミナー（オンライン開催含む）を実施するとともに、学生と卒業生とのネットワーク形成を図るべく、校友会と連携し懇談会を実施する見込みとなっている。杉本、中百舌鳥キャンパスそれぞれでセミナー等を実施することで、引き続き学生が利用しやすい環境を整える見込みであり、 2022 年度に引き続き、高い水準を維持し、当初計画を上回る実施見込みとなっている。これらの事業実施見込みを踏まえ、IV評価としている。
55	戦略的広報	2023 年度、 2024 年度ともに、本学キービジュアル「総合知で、超えていく大学。」ブランドイメージのさらなる定着に向けて、研究・教育リリースについて、その可視化展開を行う見込みとなっている。また、 2023 年度は、「イノベーション・アカデミー構想」に基づく発信情報を活用した高度研究型大学ブランドイメージの周知に取り組み、 2024 年度は、「大阪・関西万博」への参画大学としての周知に注力するとともに、新キャンパス開設を迎えるにあたり、「森之宮」まちづくりの中核を担う地域と共創するアカデミアとしての情報発信に取り組む見込みとなっており、 2022 年度に引き続き、当初計画を上回る実施見込みとなっている。これらの事業実施見込みを踏まえ、IV評価としている。

※事前レク時点ではIV評価の項目は0としておりましたが、法人内で再精査を行い、上記8項目をIII評価からIV評価へ修正しています。

III評価と判断した理由等（特筆項目）

<2023、2024年度事業実施見込>

計画 No.	事項	判断理由
44	理事長のトップマネジメント	理事長のトップマネジメントのもと、 2023 年度には外部の民間の経営者4名、内3名は女性の方を役員に迎え役員体制を一新し、経営やダイバーシティ、国際化といった視点を強化した。また、新たに「OMU戦略会議」を立ち上げ、大学が直面する戦略課題について、法人と大学、教員と職員が一体となって検討し取り組む枠組みを構築した。さらに、事務局機能・体制について、統合後の業務の統一化と適正規模の人員体制の構築に取り組むとともに、若手職員2名の府市派遣、府市から2名の職員派遣がされ、相互人事交流がスタートしている。病院経営モニタリングについては、外部人材に戦略会議へ参画いただき、病院執行部と情報交換のために定例会を実施するなど、法人経営を戦略的に行うとともに、法人機関会議の円滑な運営及び会議実施体制の整備を行う見込みとなっている。その他の達成水準も概ね計画通りの進捗が見込まれるため、III評価とした。

II 評価と判断した理由等

<2022年度業務実績>

■ II 評価の項目（3項目）

計画No.	事項	判断理由
27	高専教育の質の向上と検証	2021年度に認定を受けた数理・データサイエンス・AI教育プログラムを提供し、当該プログラム修得率向上のため、学生に対して認定プログラムに関する説明を行うとともに、各専門コースにおいて修得率の向上方策を行った。しかし、本プログラムの修了要件に4年次の選択科目であるインターンシップが含まれており、コロナ禍で企業側のインターンシップの中止が相次いだこと、また感染恐れからインターンへの参加を見送る学生が一定数いたことにより、認定プログラムの修得率が2021年度62.3%に対し、2022年度は55.4%となり、修得率が低下したため、II評価とした。2023年度においては、企業側のインターンシップが再開されており、またインターンシップ以外の単位について、着実な単位修得に向け、学生指導を強化していることから、修得率は向上する見込みとなっている。
44	理事長のトップマネジメント	病院長選考に関して、理事長、役員会及び事務局による不作為の責任があり、今回の選考に先立ち、ガバナンス改革の視点に沿った選考関連規程の改訂作業を怠ったことが、今回の混乱を招いた。そこで「経営審議会ガバナンス改革部会」からの提言を踏まえ、新たに制定した病院規程及び病院長候補者選考規程のもと、8月、9月に病院長候補者選考会議を4回開催のうえ病院長候補者を選考し、理事長が10月1日付で病院長を任命した。なお、役員自らの責任を明らかにするとして、関係する役員から役員報酬の一部を自主返納する申し出があり、本法人はその申し出を受け入れた。経営審議会からの問題提起に従って、年度上半期においては「経営審議会ガバナンス改革部会」が10回開催され、法人のガバナンス改革について議論が行われた。年度下半期においては同部会からの指摘に基づき、公正公明性及び透明性を担保するため、理事の役割の明確化や特別職人事の廃止・見直しなど、法人におけるガバナンス改革を進めた。これらの経緯を踏まえ、II評価とした。
64	コンプライアンス等の推進	2019年に大阪市立大学医学部附属病院で発生した医療事故に関して、ご家族側と当院側の両弁護士で合意の上、2021年8月に病院Webサイトでの公表を行ったが、2022年3月に弁護士が変更となった際に、公表基準と異なる旨の指摘があり、ご家族からの要望も踏まえ、11月に報道機関を通して改めて公表した。医療事故に関する公表基準については、2022年6月に見直しを実施済である。また、事故調査委員会の提言を受けて2020年度中に医療上の対策を実施済である。本件を踏まえ、当該項目をII評価とした。

※事前レク時点では計画No.44はIII評価としておりましたが、法人内で再精査を行い、II評価へ修正しています。

<2023、2024年度事業実施見込>

■ II 評価の項目（1項目）

計画No.	事項	判断理由
56	計画的な施設整備	森之宮キャンパスの整備について、予算内、期限内での事業完了に向けて、実施設計及び先行工事を進めてきたが、9月に不発弾が発見され工事が中断することになったことに伴い、事業者、府市および各学部の教職員と調整した結果、キャンパスの供用開始が2025年度後期からとなった。本件を踏まえ、当該項目をII評価とした。